

月刊 ウィーン

GEKKAN-WIEN

Monatsmagazin Japanisch

現地オリジナル取材と編集で
ウィーンを伝える月刊情報紙

創刊平成元年 創刊31年目 **Nr. 370**

2020年9月号



Gustav Klimt, Sonja Knips, 1897/1898 © Belvedere, Wien

ベルヴェデーレ上宮展示 グスタフ・クリムト「ソーニャ・クニプス」ベルヴェデーレ所蔵

杉本純の原子力の話II ウィーンと京都 103

日本船舶海洋工学会は七月三十一日、産業文化の発展に寄与した歴史的・技術的価値のある船舶や、関連する設備、史料類を広く周知する「ふね遺産」の二〇二〇年度選考で、原子力船「むつ」(一九九二年退役)など、八件を認定したと発表した。「ふね遺産」は、二〇一九年度選考より非現存船も認定の対象となり、今回の原子力船「むつ」については、「多くの技術的知見をもたらした我が国初の原子力船」との技術的価値が認められたものである。同学会は「むつ」の研究開発に着手した日本原子力船開発事業団の流れを汲む日本原子力研究開発機構に認定書を贈る。



<https://www.jaif.or.jp/journal/japan/4135.html>

我が国における原子力船の研究開発は、一九六一年に原子力委員会が策定した「原子力開発利用長期計画」で、貿易量の増加に伴う船舶の大型化・高速化への対応から、その必要性が示され、六三年の日本原子力船開発事業団設立で本格的に動き出した。第一船「むつ」の設計・製造は、原子炉を含め可能な限り国産技術で行うこととされ、六五年からの臨界実験などを経て、六八年に建造が開始し、六九年に進水に至ったが、七四年に遮蔽の不具合による放射線漏れを起こし計画に大幅な遅れが生じることとなる。

「むつ」は、七八年より佐世保港で安全性総点検および遮蔽改修工事が行われた後、八八年に青森県むつ市の関根浜港に入港。九〇年三月からの出力上昇試験、海上試験を経て、九一年二月に原子炉等規制法および船舶安全法に基づく合格証を得て、原子力船として完成した。その後の四回にわたる実験航海では、東はハワイ諸島沖、南はフィジー諸島沖、北はカムチャツカ半島沖まで航行し、通常海域、高温海域、荒海域などにおける実験を進め、陸上では得られない貴重なデータを取得。「むつ」は原子力で約八万二千キロ(地球二周強に相当)を航行し、原子炉の運転時間は二、二五二時間(百%出力換算)に達した。現在、「むつ」は解体され、原子炉は「むつ科学技術館」(むつ市)に保管展示。船体の一部は海洋研究開発機構の海洋地球研究船「みらい」として活躍中である。

さて、今月のウィーンと京都の対比では、両市の特徴ある企業について述べる。ウィーンに本社を置く総合金融機関であるエルステ・グループは、一八一九年にウィーンの神父ヨハン・ウェバーにより、貧者が貯蓄して財政的に独立することを助けるため、オーストリア初の貯蓄銀行として設立された。同社の motto は、貯蓄と節約のシンボルである蜂に例えて「働き、集め、増やす」であった。現在、オーストリア国内でエルステ銀行を運営するほか、チェコ、スロバキア、ハンガリー、クロアチア、セルビア、ルーマニアなどに約千六百万人の顧客、約二千三百

の支店、約四万七千人の従業員を有する中欧では最大規模の銀行グループを形成している。男子プロテニスワールドツアーの一つ、エルステ・バンク・オープン、オーストリアのアイスホッケーリーグ、オーストリア・アイスホッケーリーグ、及びウィーン国際映画祭のスポンサーを務めている。一方、京都の京セラは、稲盛和夫氏が一九五九年に中京区で京セラセラミック株式会社を創業したのが始まり。同氏は社是に「敬天愛人」を掲げ、「心をベースに経営」を実践してきた。現在、京セラグループでは、素材から部品、デバイス、機器、さらにはサービスやネットワーク事業にいたるまで、多岐にわたる事業をグローバルに展開。主力製品はスマートフォンと携帯電話、様々な機種を製造している。従業員は約七万五千人、売り上げ約一兆六千億円の半数以上は海外が占めている。稲盛氏は京セラの創業後、第二電電(現KDDI)を創業し、日本航空の再建にも携わった実業家としても有名。京セラは京セラドーム大阪と京都市京セラ美術館の命名権を取得するとともに、Jリーグ京都サンガFC、プロ野球オリックスバファローズのスポンサーも務めている。両社とも海外に広く事業を展開し、スポーツや文化を支援しているのが共通している。



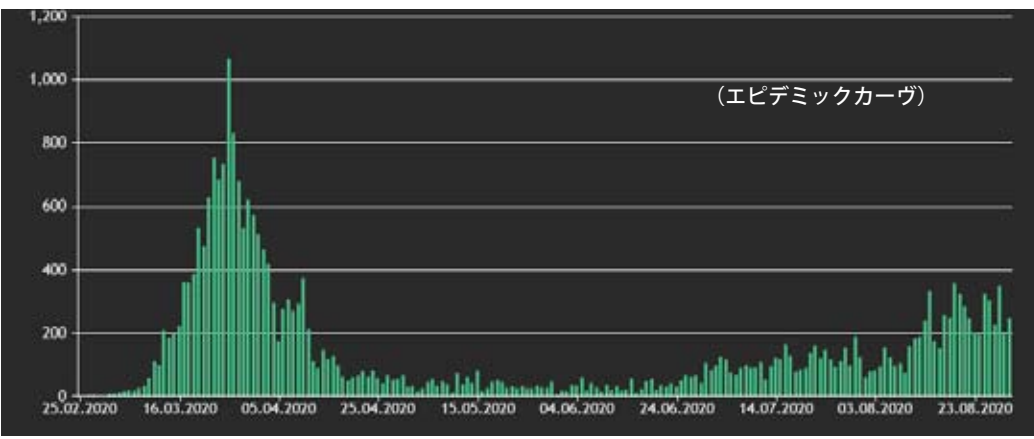
余談であるが、筆者はウィーン駐在時にエルステ銀行の看板をあちこちで見かけた。別の銀行を利用していた。研究所時代の実験で京セラ製のセラミックを絶縁体として使ったことがある。最近も東京で稲盛氏関連の無料研修に参加し、氏の経営哲学に感動した。今月も両市の特徴ある企業にまつわる話を紹介できた幸運に感謝しつつ、編集部に掲載をお願いしたエルステ本社の写真掲載させていただく。

■ 杉本純 元京都大学教授
元原子力機構ウィーン事務所長

杉本純の原子力の話II 「ウィーンと京都」の第1回からの全記事が次のサイトに掲載されています: <http://wattandedison.com/Sugimoto.html>

オーストリアの新型コロナウイルス感染状況 2020年8月31日 21:00 現在

オーストリアでの検査数 118万 0711名、感染確認 2万 7387 (ウィーン 7976・住民 10万人につき 420)名、感染者比男性 51%女性 49%、病状者 3479 (ウィーン 1788)名、感染確認が陽性で入院せず 3325名、使用可能な普通病床 9757ベッド/使用 123ベッド、使用可能な集中治療 741ベッド/使用 31ベッド、届け出のあった死亡 733 /感染によると確認された死亡 727 (ウィーン 220)名、死亡者比男性 57%女性 43%、回復 2万 3226 (ウィーン 5997)名 © Bundesministerium für Soziales, Gesundheit, Pflege und Konsumentenschutz



(エビデミックカーブ)

河野純一著

河野純一著

河野純一著

河野純一著